

# クロスアップ 人・街・夢

《三木の未来》をテーマに、中学生が脚本、監督、出演、撮影までを映画製作。

9月8日、文化会館にて、いよいよ上映会開催！

三木市(社)三木青年会議所・三木市内中学生18名



PROFILE 映画『未来につなぐ三木の心』に参加した三木市内の中学生たち

社団法人 三木青年会議所(略称:三木J.C) 1959年創立  
2012年度のスローガンは「ひとが光ればまちは輝く～まずは君が強くなれ!～」。  
岡田紹宏理事長(第54代)・近藤高弘委員長を含む会員32名が活動中。  
ものがたり法人 ファイアーワークス 東京都北区 2003年設立  
地域の皆を巻き込み、その土地を舞台にした物語や、映画のロケ地では終わらない住民のみんなと共に目指す「まちづくり・映画づくり」などで注目の映画製作会社。日経地域情報化大賞「日経MJ賞2005」受賞。今回の映画製作にあたり、中学生らに本格指導とサポート、および編集を担った。  
ショートムービー『未来につなぐ三木の心』2012年制作  
あらすじ:「世界一美しいまち三木市」をつくりたい心優しい三木清四郎市長が、ある日突然「ダークシティ三木」を目指すサメダメ市長に?!  
三木市の未来のために、みつきレッドが立ち上がった。そして…。

## 【大きな思い出を自分たちで作ろう】

地域の青年経済人として、様々な「まちづくり」「ひとづくり」活動に邁進する三木J.Cが、今年取り組んだ『みつきいふるさと創造プロジェクト』は、地元での『映画づくり』。企画発案者は近藤高弘委員長。「子どもたちにふるさとを好きになってほしい。何かいい思い出になるようなことはないか」という発想から「いっそ子どもたち自身に、三木市を舞台にした『映画づくり』を体験してもらおう」と、話は大きく膨らんだ。

むろん、全員が映画づくりには全くの素人ばかりの初挑戦。そこで、インターネットで知り合った地域密着型映画制作などを手掛ける『ものがたり法人ファイアーワークス』(東京都)に指導を仰ぎながら企画を進め、5月6日に三木市内の中学生を公募。夏休みの撮影に参加可能な18名が集い、7月8日から、脚本、監督、俳優、撮影の4チームに分かれて、本格始動した。

## 【本気には本気で。大人たちも熱くなる】

中学生らが製作するのは、10～15程度のショートムービー。監督班、脚本班、俳優班、撮影班の4チームに分かれ、原作検討会からスタート。講師を務めたファイアーワークス

## 【撮影当日は、市役所、市役所周辺、恵比寿駅、山田錦の郷、三木城址など、お馴染みの場所がロケ地。蝉の声が鳴り響く蒸し暑さの中、汗と土埃にまみれながら、自分たちの納得のいくまで何度もリハールとメイクを繰り返す姿には、誰もが感動を覚えた。監督を務めた三好清さん(中2)は、趣味で小説を書いている、合唱部の先生に勧められてプロジェクトに参加。クランクアップを終え「最高に充実した夏でした!」ときっぱり言い切る表情が清々しく輝いていた。

「僕たちが三木を好きになるのは、金物や山田錦が有名だからじゃない。三木でのつながり、三木の人の思い出だったりするんじゃないでしょうか」と、撮影最終日に語った近藤委員長。「ほんの15分程度の映画製作がこんなにも大変だとは思ってなかった。正直もう無理かと思ったこともあったけど、中学生たちと仲間を助けてもらった。今は彼らと続編を作りたいくらい」とメンバーらと共に穏やかに笑った。

来たる8日、中学生と大人が真剣に取り組んだ暑い夏が、上映会で蘇る。地元を愛する多くの人に見届けてもらいたい。

## 【脚本家・栗山宗大さんは、「大人が用意した物語ではなく、子どもたちの思いのこもった映画づくり」をしてもらうために、「映画に必要なものは何か」を問いかけ、最も必要なものを3つあげた。「1つ目は、皆で話し合う。2つ目は皆で力を合わせる。3つ目は、絶対にあきらめない」。真剣に聞き入る中学生らの表情に、三木J.Cメンバーたちの胸も熱くなったという。「子どもたちの一生懸命さに教えられたことは数々ありました。子どもたちの本気に大人たちも本気で応えたいと、すぐに伝わるんですよ。」

その後、8月4～6日の撮影本番が始まるまで、それぞれの多忙なスケジュールを調整しながら、13回もの部会を設け、皆の絆はど

んと深まっていた。